



なばり

2014年(平成26年) 6月22日発行

主な内容

- 2……生涯現役による 躍進のまちづくりプロジェクト
- 3……ひまわり、かがやき催物、リバーナホール催物
- 4……伊賀地域二次救急実施病院、国津の杜の行事

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

認知症は、特別なことじゃない だからこそ、みんなに知ってほしい

認知症ケア講演会

住み慣れたところで、尊厳を持って生きる。



川崎医科大学神経内科特任准教授
岡山県認知症疾患医療センター

副センター長 **片山 禎夫**さん

「ダメでしょう」と本人の行動を否定することは、本人はうれしくないものではないかもしれませんが、症状を悪くさせてしまいます。物忘れは、最近の出

来事から忘れていきます。その人の人生、環境、生活習慣を知っていなければ、一緒に生活することはできません。また、その人の自信と誇りを大切に考えなければなりません。適切なケアは、本人にストレスが掛からないよう、そして本人に笑顔が出る対応をすることです。

娘の大切なピアノにおしっこをかけた父。許せない娘。本当につらいんです。こんなときは、笑顔で対応すると聞いてはいるものの。濡れたスポンジの父をそのままにし、朝を迎えさせてしまったんです。その心を理解してください。これは、認知症になったお父さんと娘さんの話です。認知症の人とその家族の皆さんは、戸惑いと不安、悩みと混乱が繰り返してやってくる。65歳以上の4人に1人は、認知機能

が低下します。認知症は、物忘れとも一つの認知機能の低下を複合的に発症したもので、本人、家族が困ったときに初めてそう呼びます。時間・場所・人物が分からなくなったり、思っていることをうまく言葉にできなかったりしていきます。

認知症のケア

認知機能が低下したとき、多くの方は、他の人に迷惑を掛けたくないと思いき、本人はがんばろうとします。しかし、うまくいかないことが増える、がんばろうという意識が他のいろいろなことを忘れさせようとしてきます。また、周りの人がその気持ちを理解しないで「ダメでしょう」と本人の行動を否定することは、本人はうれしくないものではないかもしれませんが、症状を悪くさせてしまいます。物忘れは、最近の出

仲間や地域の支え

しかし、家族もストレスが掛かり、いつも笑顔で対応することができなくなります。こうしたストレスや苦しみを少しでも軽減できる場所がほしい。そんな思いからできたのが「家族の会」です。「あ、そんなこと私もあった」と一緒に思いを共感できる会です。一人で抱え込まずに、一緒に話して、泣いて、笑って、共に支え合うことが大切です。住み慣れた地域で、認知症になっても安心して暮らせるようにするためにも、認知症に対する正しい理解と、仲間や地域の支えが必要ですね。

大切な家族や自分が認知症になる。そうなった場合、きっと誰もが戸惑いと不安、そして悩みと混乱が生じると思いますが。認知症は、まだまだ完治が難しい病気ですが、早期発見や治療薬で進行を遅らせることができます。まずは、私たちが、認知症に対して正しい理解を持つことが求められています。認知症ケア講演会が、5月17日、武道交流館いきいきで開催され、約220人が参加しました。今号では、その講演内容の一部をご紹介します。

☎ 地域包括支援センター
☎ 63・7833

認知症の相談窓口

地域の相談窓口

- 各地域まちの保健室(欄外参照)
- 地域包括支援センター(市役所1階 ☎63-7833)
- 医療機関 ※まずはかかりつけ医にご相談を

電話で相談したいときは

- 三重県認知症コールセンター(平日)
☎059-235-4165 午前9時30分~午後5時30分
- 認知症の人と家族の会(平日)
☎0120-294-456 午前10時~午後3時
- 介護支え合い電話相談室(月~木曜日)
社会福祉法人浴風会 ☎03-5941-1038
午前10時~午後3時

認知症疾患医療センターの電話相談

- 三重大学医学部付属病院(月・水曜日のみ)
☎059-231-6029 午前10時~午後3時30分
- 県立こころの医療センター(平日)
☎059-235-2125 午前8時30分~午後4時

認知症の人と家族の会・交流会開催

日時 7月22日(木)午後1時30分~4時
場所 武道交流館いきいき(蔵持町里)
◎参加費など詳しくは、問い合わせ先へ
☎ 地域包括支援センター ☎63-7833